

夫と開業。

仕事も子育ても両立させたい。

歯科医師を目指したきっかけは母の言葉でした。「女性こそ、手に職を付けていないと苦労するわよ」ということを、母は自分の体験とともによく語ってくれていたのです。もともと人助けに興味があり、医療系の仕事に憧れを抱いていた私は「手に職」を目指すことに抵抗はありませんでした。ただ、いずれ結婚もしたいし、子育てもしたかった。そこで、仕事と子育てを両立できる専門職を探しました。歯科医師は内科や外科の医師ほど仕事がハードではなく、その割に看護師や薬剤師に比べたら高収入が期待できる。さらに再就職先を探す時も有利。まさに私のような女性に向いている仕事だと思ったのです。しかしながら、その道のりは順風満帆とは言えません。2年間の浪人生活。3度目の挑戦で、神奈川歯科大学に合格した時は本当にうれしかったことを憶えています。入学後はとにかく時間に追われる毎日でした。3年生からは実習の授業が始まり、5年生になるといよいよ病院実習です。通常の歯科医師なら1日で終わるような治療を、学生が1ヶ月かけて行います。了解は得ているものの、初めての患者さんに対しては「ありがとうございます」という感謝の思いでいっぱい。「技術が劣るぶん、信頼関係を築くには誠意しかない」と一生懸命、その患者さんと向き合いました。

その後、歯科医師の国家試験に合格。卒業後はまず研修医として大学に残りました。大学でしか見ることができない症例や治療技術をできるだけ吸収したかったのです。そうして多少ながらの経験を積んだ後に、別の病院に転職。そこで、公私共に将来のパートナーとなる夫と出会いました。治療に対する方向性が近かったこと、私の大ざっぱな性格に対して、夫の細やかな性格。お互いが補完し合いながら、うまくやっていたのではと交際が始まり、結婚。2人の子供にも恵まれました。そして、4年前、待望の自分たちの病院を開業することができました。現在は副院長と母親の仕事を両立させながら、地域の患者さんとの信頼関係づくりに励んでいます。女性歯科医師ということもあり、とくに私が担当する患者さんは女性の患者さんや子どもの患者さんが多いかもしれません。実際、子どもの小さい口には女性の細い手が向いているし、自ら子育ても経験しているので、母親の気持ち、子どもの気持ちも男性歯科医師に比べて分かるつもりです。そう考えると、歯科医師という仕事はますます女性に向いている気もしますね。将来は、歯の美しさを生み出す「審美」の技術をより磨き、「美」をトータルに提供できる、それこそ女性ならではの病院づくりにも挑戦してみたい。まだまだ時間に追われる日々は終わりそうにないですね。



Profile

三坂 栄子さん EIKO MISAKA

神奈川歯科大学歯学部 1999年3月卒。卒業後は歯科医院で勤務医として4年間働いた後、職場の同僚と結婚。夫婦で開業を目指すことに。2児の出産を経て、34歳の時に開業。

A Day of
Woman Dentist

4歳と6歳の子どもがいるため朝夕は大忙し。また、子どもが熱を出してしまった時などは本当に大変です。ただ、接する時間が限られているぶん、子どもをより大切にできると思います。

